

会議録

会議の名称	西東京市公民館運営審議会平成21年度第10回定例会会議記録
開催日時	平成22年1月27日（水曜日） 18時30分から20時20分まで
開催場所	田無公民館 第2学習室
出席者	会長：森忠 副会長：渡辺文子 委員：西嶋剛昭、中嶋美沙子、定盛秀俊、千葉桂子、古賀節子、柴山隼、大島眞之、福島憲子、加藤真理 職員：相原館長、山本主幹、近藤係長、寺嶋分館長、小笠原分館長、玉木分館長、小林分館長
欠席者	須磨田純子、萩原建次郎、上田幸夫
議題	(1) 第9回定例会の記録について (2) 報告事項 1 行政報告 2 事業計画書・報告書について 3 公民館だより編集室報告 4 都公連委員部会運営委員報告 (3) 協議事項 2010年度西東京市公民館事業計画（案） (4) 事務連絡及び情報交換 (5) 次回の日程について
会議資料の名称	(1) 事業計画書 1 平和を考える講座「アフガニスタン・平和への願い」（芝久保） 2 地域交流事業「ひばりが丘フェスティバル・音楽コンサート」（ひばり） 3 邦楽を楽しむ「尺八と箏の調べ」（駅前） (2) 事業報告書 1 子どもをもつ女性のための講座「未来へつなぐ「たからもの」」（柳沢） 2 地域のしゃべり場カレッジ広場（田無） 3 ウィンターコンサート「ジャズで歳忘れ」（谷戸） 4 子育て中の女性のための講座「これからの時代をしなやかに生きる翼をもとう」（ひばり）
記録方法	<input type="checkbox"/> 全文記録 <input type="checkbox"/> 発言者の発言内容ごとの要点記録 <input checked="" type="checkbox"/> 会議内容の要点記録
傍聴者	<input type="checkbox"/> 有り（人） <input checked="" type="checkbox"/> 無し
会議内容	
<p>(1) 第9回定例会の記録について</p> <p>○副会長： 記録の修正についての申し出等を確認する。</p> <p>○職員： 特になし。</p> <p>○副会長： 配付した記録のとおりとする。</p> <p>(2) 報告事項</p> <p>1 行政報告</p> <p>○副会長：</p>	

報告を受ける。

○館長：

1点目、公共予約システムの規則の改正について、スポーツ施設の市長部局への移管に伴い、教育委員会所管の規則改正を行う。

2点目は第3次行革大綱素案のパブリックコメントが2月19日までの間に行われている。52項目の素案のうち、公民館も含まれている。来年度からの5か年の計画である。公民館は、市民ニーズや多様な活動主体を活用したサービス提供に組み込まれ、具体的には「公民館の運営体制の見直し」というタイトル。効果的な事業執行のための運営の見直しを求められている。

第2次行革は民間への委託について検討し、既に指定管理者制度については西東京の公民館には馴染まない、との結論を導いている。今回は民間委託の項目からは外れているものの、この間進めて来た公民館専門員による地域人材の活用について、今後はそれらの人材をどのように活用して、この先5年間の取組みを講じるのかを求められている。

○副会長：

質疑を受ける。特になければ終結する。

2 事業計画書・報告書について

○副会長：

質問・意見を受ける。

○委員：

芝久保公の平和事業だが、この事業の対象は、若者を前提としているのか。また、その根拠は。

○職員：

そもそも青年期事業の予算で企画しており、対象も若者を前提に考えている。

当初、武蔵野大学と共同で行う予定だったが、学生との日程協議でうまく折り合いが付かず、直接的な事業への関与は成立しなかった。現在は市内の高校、亜細亜大などの近隣の大学に参加者を募るためにあいさつ回りをしている。

これまでも平和事業については青年期講座として行ってきたが、実態としては高齢者の方の参加がほとんどであり、テーマを変化させて実施しようと試みている。芝久保にとっては合併以前からの伝統的な事業であり、何とか切らないようにしなければならない内容だ。これまで続けてきた戦争体験を聞く、というスタイルから、若い人に平和を再考してもらえる内容に変更した。青年期対象ではあるが、もちろんそれ以外の年齢層の方の参加も歓迎する。

○委員：

平和事業については、秋の利用者懇談会の席でも出席者からの声があり、地域の方は継続について強い期待を持っている。平和事業は、戦争の体験談ばかりではないと思う。今回のハイチ大地震による命の危機についてなども含まれる内容と思う。高校・大学生ばかりでなく、中学生にも声をかけてあげてほしい。

○委員：

とても重要な、良い企画であると思う。柳沢公でも夏になると市民による展示や発表があるが、この西東京においても戦争被害が起こったという事実を風化させないようにしてほしい。

私の知り合いの子どもたちが、今回の大地震に対して生徒会で支援活動をスタートさせたということを知り、公民館でもカンパなどができないものかと思った。

○委員：

田無公のカレッジ広場は非常に進んだ取り組みであった。ところが、今後の方向性に、講座からのステップアップに関する担当者のコメントが出ているが、どうなっていくのか。

○職員：

報告にも書いたように、田無カレッジの1年間の参加者だけで次のステップに進むことについては、移行する人が少なく大変難しい現状がある。ただし、現在集まっている人を中心にして、来年度はサークル化が決まっているようで、その支援を行うことになると思う。

○委員：

ひばり公の若い女性のための講座の感想文から、講座内容が良かったということが伝わってくる。外へ出るきっかけが作れたのは大変良かった。ひばり公では、市民企画事業にも若い女性たちが中心になって提案してきたことを記憶している。地域に元気な女性たちが多くいるということかと思う。こうした企画をするサークルと、この講座の参加者の関係を築くことなどは考えているのか。講座に参加した後のサークル化で力を付けられるようなフォローをしてあげてほしい。

○職員：

この講座も3年目であり、若い女性のために幅広い内容で、より深く学習できるように担当も進めている。ひばり公の核となる事業になりつつある。

○委員：

谷戸公の歳忘れコンサートだが、年齢制限はしたのか。どんな世代が多かったか。

○職員：

制限はしていない。若い参加者も多く見かけた。

○委員：

谷戸公の周辺はマンションが多くなり、若い住民が多く住むようになっているはずだ。その当たりを意識した講座に取り組んでほしい。

○委員：

ひばり公の地域交流事業は、今回が初めての実施か。実行委員会が関わるということにおいては公民館まつりと同じ位置づけということでよいのか。地域をつなぐネットワークづくりが地域力を高める核となる。ぜひ、そうした営みにしてほしい。

○職員：

ひばり公では、2001年度からのIT事業をメインの事業として暫くの間取り組んできたが、2005年に事業が終結した。その後、ITという個人のスキルを高めるための事業展開から、より地域を意識した内容の事業への転換を模索してきたが、ひばり公ではこうした市民参加の事業がなかったために、市民と一体になって行う事業としてスタートを切った。

ひばり公は、開館時点には、音楽や楽器を使った活動を行いやすいような構想でスタートしており、多くの団体も活動している。そこで、その資源を生かす取り組みを考えた。直近の取り組みとしては、昨年までの3年間に春を呼ぶコンサートを継続してきたが、この事業を発展させた形だ。指摘のように、地域力の向上に向けて、継続していきたい。

○委員：

駅前公の邦楽を楽しむだが、以前だよりの取材で尺八のサークルから話を聞いた。駅前公で活動するサークルとの共同はあるのか。1時間の内容では難しいところもあるだろうが、せめてもサークルの紹介程度はしてはどうなのか。

○職員：

今回はサークルとの共同化は考えていない。合唱サークルとの連携事業は終わったばかりであり、今後の課題としたい。

○委員：

ひばり公のコンサートだが、子ども連れの参加も認められるのか。

○職員：

特に考えていないが、影響がなければよいのかと思う。

○副会長：

質疑を終結する。

3 公民館だより編集室報告

○副会長：

報告を求める。

○委員：

1月号の1面のタイトルは良かったという結論だが、写真の関係で空白の部分が目立ってしまい、レイアウトの側面からは反省材料はあった。また、田無公の子育て支援講座のタイトルは、「社会課題を考える講座」というタイトルが大きくなってしまったのは良くなかった。同じ理由で、柳沢公の人権講座も「風の音色に心をのせて」では、記事を見た人がズバリ何の講座であるかが理解できないのではないか、という指摘があった。今後は編集室としても気を配りたい。

先月指摘のあった公運審コラムの念校漏れについてだが、初歩的なミスであり、反省している。委員には改めてお詫びしたい。

2月号の1面は、講座参加者の声を掲載するが、結果として文字ばかりになってしまい、戸惑っている。この関係で、サークル訪問は4面に移動した。若者のバンド、パラドックスを取り上げた。

3月号は、ひばり公の地域交流事業、4月号は谷戸まつり、サークル訪問は芝久保公の木エクラフトサークル。

2010年度の紙面についてだが、現状では大きな変更はない予定だ。ただし、現在編集会議は月1回の開催だが、1回では困難な点もあり、回数増について検討中だ。公運審コラムのスペースについては、今後も必要なかどうかについてはこの会議でも検討してほしい。

現在病欠中の委員の後任を1人出してはどうかと思っている。検討してほしい。

○委員：

1月号の文部科学省の「Kominkan」のパンフレットについて、もっと説明してほしい。記事との関連は特になかったもので、何でかと思われたのではないか。

3面の人権講座のタイトルについては私も同感である。あわせて、この講座と芝久保の教育ネットワーク講座の講師が同一人物であり、たまたま同じ頁に上下で並んで掲載されてしまい、違和感を持った。こうした場合のレイアウト、掲載頁も工夫が必要と思う。

○副会長：

ほかになければ、質疑を終結する。

4 都公連委員部会運営委員報告

○会長：

報告を求める。

○委員：

2月の第3回研修会について協議した。開催は2月21日の13時30分からで、稲城市城山公民館において実施する。テーマは「公民館の地域に根ざす実践的な取組み」で、事例報告者は多摩市、国分寺市、西東京市だ。多摩市はターミナル型公民館の事例、国分寺市は地域づくりについて、などで、これまでは助言者が集約していたが、今回は事例報告後にグループ討議の時間を1時間ほどとって運営する予定だ。

○副会長：

質疑を受ける。特になければ終結する。暫時休憩する。

(19時15分休憩)

(19時25分再開)

○会長：

会議を再開する。

(3) 協議事項

2010年度西東京市公民館事業計画（案）

○会長：

説明を求める。

○職員：

具体的な説明の前に、今後の予定について説明する。本日は席上配付のため、概略の説明をするので、実質の審議は2月定例会でお願いしたい。2月の審議内容と、現在も職員間で協議している内容とを融合して、最終案を3月定例会に提示したい。そこでの審議後採決を行い、2010年度計画として成立する。その後、4月の市教委には、館長から報告案件として説明する予定だ。

毎月の各館の事業計画だが、この2010年度の事業計画の事業方針等に基づき提案するものであり、公運審として公民館事業への採決権を行使できるのは年に1回なので、慎重に審議をお願いしたい。今日配付した事業計画案の後半は各館の個別事業を提示しているが、まだまだ草案の段階であり、4頁に記載の館の方針や重点事業に沿って、担当者が具体化していくことになる。したがって、毎月の事業計画は、館長決裁後の報告事項となることは以前にも説明したとおりだ。

2月の審議では、4頁から7頁を中心に審議をしてもらえると幸いだ。

○職員：

事業計画（案）について説明する。今回の計画は、4頁の方針の素案づくりを公民館専門員の研修という位置づけで行ったことが特徴だ。現在、各館ともに専門員2人、職員2人の体制が定着し、専門員への期待の比重がより高いものになっていると思う。有資格の専門職員として採用した訳だが、知識を得るための研修ではなく、具体的な執務として館の事業方針を策定する場面に関わることで、公民館職員の資質をより高度なものにしてもらうことを目的とした。

既に、この素案は全職員の会議の席で報告、意見調整をし、確認された内容だ。

策定に当たっては、2009年度までの事業方針をゼロベースで考え、今の西東京の公民館に何が不足していて、何が必要かという討議からスタートした。10月に議論を始め、先週末まで研修会を継続してきた。

まず4頁の事業方針は朗読したい。

(事業方針朗読)

文章の前半部分だが、地域の中の公民館であるということを大切に記述になっている。今まではない表現であると考えている。後半の記述は従来のものと大きな変化はないが、語句の使い回し

については十分議論を重ねた。誰にでも分かりやすくしたつもりだ。

活動目標は従来のものを踏襲し、地域づくりの視点を大切にしたい。

重点事業は5項目で、1点目はロビーの積極的な活用について。ロビーの活用は、ハード・ソフトの両面から活用したいと考えている。公民館3階建て論を生かした内容と思っしてほしい。ロビーの日常の活用については大切にしながら、ロビーコンサートや小さな展示会など公民館としての事業活用も膨らませつつ、市民の情報提供の場としての整備や情報の整理にも努めたい。

2点目が情報提供機能について。今年度に完成した団体情報一覧の更新と今後どのように有効活用するのかと、日ごろからの地域情報の収集に心がけることやホームページなどを通じて情報を提供することにも心がけたい。

3点目は新たな利用層に関する事。新たな利用層開拓のターゲットとして、青年層や勤労者に受け入れられる事業の展開を組み入れていきたい。

4点目は、より主体的な学習に向けての事業の組み立てについて。事業展開の具体的な手法を明示した。事業を計画する際、その経過から学ぶこと、至る経過を学ぶことを伝えたい。公民館は、こうした市民の学習を支えることを意識したい。

5点目は、利用者懇談会の充実について。これまで余り活発に活用してきているとはいえなかったが、取り敢えずは出席率を上げるような具体的な手法を見つけることを目標に掲げたい。

5頁から7頁には大きな変化はない。8頁から14頁は各館の個別計画だが、まずは文字を大きく見やすくした事。分館別のとりまとめを改め、対象別に並べた。15頁以降はカレンダー方式の表記に工夫した。

○会長：

質疑を受ける。

○委員：

西東京市合併10周年記念事業については、公民館として考えていないのか。

○職員：

2011年度に該当と聞いている。

○委員：

個別の事業だが、まったくの新規事業なのか、これまでも継続されてきたもののかの表記はできないか。

○職員：

可能だとは思いますが、タイトルのみ変わって以前のを踏襲していたりするので、新規なのか継続なのかを見分けるのが難しい事業もある。

○職員：

単純には見分けられないものもあるとは思いますが、新たな提案なので、検討してみたい。

○会長：

他になければ、次回の会議に継続審議としたい。

(4) 事務連絡及び情報交換

○会長：

先月の議論の中では、いかに公民館や公運審のPRに努力すべきかという点についての意見が集中したと思う。公民館は、地域の学びを大切にする施設であることには論を待たない。そうした施設の諮問機関である公運審がどうあるべきか、各位自らの体験を通して意見を確かめたい。

○委員：

委員を拝命しているが、日ごろ公民館を使っている市民との接触が難しい。したがって、地域課題を話し合う機会も少ないと思う。利用者懇談会は2回あるが、自分の住んでいない地域の公民館に出席して発言をすることはなかなか難しいことである。だからこそ、自分の区域の館の懇談会には極力出席していきたい。職員も、もっとうまく公運審委員を活用してほしいと思っている。

○委員：

委員が公民館のあり方を考えるためにも、地域や公民館の知識を得るためには施設に出向く必要はあると思うので、その努力は惜しまないようにしていきたい。

○委員：

都公運の委員部会の会議でも度々話題になることは、委員として公民館とどのように関わるか、ということだ。先月全ての館の主催事業に参加してみたという発言があった。また、他市では委員が名札をつけて公民館を訪問しているということも報告した、私はいいことだと思うが、その存在を市民にわかってもらう工夫は考えてみてはどうか。

○委員：

こうして関わるまではよく理解をしていなかったもので、いまだに何をしたら良いのかという結論はない。決まったことをまとめる作業も大切だが、ディスカッションはもっと大切だ。自由に発言のできる場を作るべきだ。

公運審委員が名札を着用するのは賛成だ。この人が委員だとわかれば、意見をもらえるチャンスもふえるのではないか。可能性は生かしたいと思う。

○委員：

数年前前から障害者学級に関わりを持っていたが、公運審委員を務めて始めて公民館の役割が整理できて学級のスタッフとしての気持ちも変わってきた。

委員になったことで公民館のことを地域の人に伝えるようにもなった。1つの目的に向かって活動することも考えるようになったし、障害者学級の学級生へも、家族に対しても関わり方が変わるという連鎖反応があったと思う。委員を引き受けて、さまざまに学んだ結果だと思っている。少しは、その役割を理解できてきたと思っている。

○委員：

いまだによく理解できていない部分も多いが、毎月の議論に参加していると、西東京市民はうらやましいと思う。23区にはこういう施設はないためだ。

公民館と学校との関連は、うまく述べることができていないが、逐次努力したい。

先月話題になった公運審委員による広報紙については、現在の委員体制では難しいと感じた。現行の公運審コラムをもっと要項活用してはどうかと思う。

○委員：

小学校長会からの推薦で委員になっている。旧保谷市の時代から在職しているが、自分が市民であれば住民としての立場でいろいろと述べたいこともあるが、学校長の立場で意見を述べるというのは難しく感じてしまい、つい控えてしまうことも多くなる。まずは各委員の意見を聞くということに徹し、これを校内で生かすことで会議への参加の意義を高めている。日々の意見は、大変ありがたいと思っている。

○委員：

委員としてどうあるべきか、これは現在、模索中と答えたい。私たちは、利用者の意見を吸い上げ

る立場だと認識している。そういうことで、公民館にも多く足を運んでいるし、公民館よりも以前に比して隅々まで見るようになった。興味を持つと面白いと思えることは多くなる。私は、主催講座に申し込みもせずに顔を出して様子を見学してきたが、この立場でない市民が、いきなり見学させてほしいと言っても、ほとんど断られてしまうと思うが、これも委員としての特権かと考える。参加してみると、受講生の感覚が良く理解できる。私の思いと違うこともままある。この手法は、自分の流儀ということで理解してほしい。

○委員：

委員に推薦されるまでは、何をやる役割なのかも良く理解しないままに加わってしまったが、前から公民館がある地域に住めてよかった、とは感じていたし、それが引き受けた原点だ。

これまでは、利用するだけであったが、こうして考える立場になって、ますます市民にとって大事な場であるということが実感できたので、それを生かしていくことを考えるためにアンテナを広げることが多くなった。仲間との雑談のときにも相手の話を良く聞くようになった。公民館は、大事に育てなければならない施設だ。

○委員：

就任して3年目だが、委員になって公民館の見方が変わったと思う。利用者としてのときにも大切な施設だとは思っていたが、大切さが変わった。

先日も、委員として市民企画事業の報告会に出席したが、そうすることで市民からの生の声を得られる。そうした場で、私は公運審の委員であるということを伝えると、意見を受けやすくなる。

公民館を取り巻く環境は変化が激しく、今後もひやひやしながら眺めないといけないのだろうと思うが、大切な施設として守っていききたい。今後とも何ができるのかを考えたい。市民にとって支持してもらえる公民館であってほしい。

○会長：

各位の発言を聞いていて、委員になると、利用者のときと比して相当の時間を「公民館とは」ということを考えるようになるのだろう。1つのことが解決したとしても、また「公民館とは」という原点に戻ることになるのだと思う。

これは委員である限り当然のことであると、私は考える。しかし、いずれは委員の任期が終わることになるが、それ以降も、在籍時と同じ考えでいられるかどうかが大変なことであると思う。私も当然のこと、5年間の委員生活で、公民館の大切さ、ということは深化している。こういう市民をふやすことが大事かと思う。

名札についての議論が出た。着用することは、私にとっては簡単なことであるが、中には付けたくないという人もいよう。ルール化してまで推し進めることではないと思うし、こうしたことは引き続き課題として議論していきたい。

本日は、この程度でとどめたい。

(5) 次回の日程について

2月24日（水曜日）18時30分

於：田無公民館 第2学習室

○会長：

他に意見がなければ、閉会とする。